

# 陸連時報 三

2018  
平成30年

1

月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

## 目 次

2017年度 全国強化責任者会議(強化委員会).....	166
功労章・秩父宮章・高校優秀指導者章・中学優秀指導者章・勲功章・競技者育成章.....	168
陸上競技研究紀要投稿募集について(陸上競技研究紀要編集委員会).....	172
マラソンメディスンセミナー2017報告(理事・医事委員長 山澤文裕).....	173
第26回日本陸上競技連盟トレーナーセミナー開催案内.....	174
第23回JAAFコーチング・クリニック参加者募集.....	175
2018 X-RUN CHIBAクロスカントリー大会(第3回全国中学生クロスカントリー選手権大会).....	176
2017数字で見る陸上競技Vol.3 都道府県別日体協公認指導者数(陸上競技).....	177
大会観戦ガイド.....	178
陸協NEWS.....	180
事務局からのお知らせ.....	182

## 公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

# 2017年度 全国強化責任者会議

強化委員会

日時 2017年11月2日(木) 13時00分～16時30分  
場所 新宿NSビル 30階 ルーム3  
出席者 尾縣専務理事、強化ディレクター、協力4団体強化担当者、都道府県陸上競技協会強化責任者

## 挨拶(尾縣専務理事)

- ①2020年の東京五輪を控え、2019年は4月にアジア選手権、5月に世界リレーが行われる予定である。さらに、2020年は4、5月しか新国立競技場が使用できない可能性が高い。そのため、2018年以降の競技会スケジュールは、従来とは異なった競技会スケジュールとなる可能性があるため、各都道府県の方々にも競技会運営に協力を願いたい。
- ②2002年日韓ワールドカップにおいて新設された競技場10か所のうち、プロ競技団体を2つ持つ北海道のみなるとか黒字運営となっている。「陸上競技は儲けることができないという」印象を与えたことも含めて新国立競技場が球技専用の競技場となってしまった。首都だけではなく、様々な所からも陸上競技の振興と競技会の盛り上げに努めていただきたい。

## 議題

### (1) 世界で失敗しないために～世界で勝負するためのIAAFルールの知識～

関国際担当部長より、主にIAAFルールの改正点についての報告があった。

2018ルール改正点(要点を記載)

- ・テイクオーバーゾーン…4×100mR、メドレー1走2走のブルーラインがなくなり、テイクオーバーゾーンが30mになる。
- ・フィールド種目の制限時間…30秒に変更となる。



挨拶する尾縣専務理事

(棒高跳は変更なし)

※IAAFルールは2017年11月1日より適応、日本陸連ルールは2018年4月1日より適応される。

- ・国際大会でのルール運用…フライングでなく不適切行為として号砲前の微動が追記される。

### (2) 2017年度上期強化活動報告

#### ①ナショナルカテゴリー国際競技会の活動報告

山崎強化ディレクターにより、8月にロンドン(イギリス)で開催された世界選手権における、大会結果に対する報告があった。

- ・ロンドン世界陸上競技選手権大会においては、メダルカテゴリーにおいて強化活動状況が結果に表れた。
- ・現在、ゴールドメダル、メダル、TOP8、ワールドチャレンジ、より細分化して強化活動に対応できるように設定している。
- ・来年のアジア大会の選考過程も複雑化し、標準記録も非常に高く設定している。(表参考) その理由としては、東京2020オリンピックで開催国枠がないことが予想され、標準記録の突破が必須となる。そのため、各カテゴリーより高い目標をもって取り組んでいただきたい。

#### ②U18カテゴリー国際競技会の活動報告(麻場ディレクター)

麻場強化育成ディレクターにより5月にバンコク(タイ)で開催されたアジアユース選手権大会における大会結果に対する報告があった。また、U18世界選手権への派遣中止の経緯の報告があった。

### (3) 2018年度主要競技会日程(案)

事務局より以下の点について、2018年度主要競技会日程(案)の説明があった。

- ・ジュニアオリンピックが、例年より2週繰り上がっている。
- ・日本選手権リレーの開催時期・場所が未確定である。
- ・2018年度より、GPP・GPという区分を設けた。
- ・アジアジュニア陸上競技選手権大会が開催される関係で、学生個人選手権が一週間下がっており、ここまですべてをU20世界選手権の選考競技対象となる予定である。

### (4) マラソングランドチャンピオンシップ(以下、MGC)について

河野長距離・マラソンディレクターより、以下の通り情報共有を行った。

- ・東京2020オリンピックにおけるマラソン日本代表

選考方針についての説明を行った。

- ・ ロンドン世界陸上の結果を含め、過去の方法での選考では世界で勝つことが厳しいという結論から、MGCを設定した。
- ・ 各選手多種目に取り組むのではなく、トラックなのかマラソンなのかを決定し、それぞれの種目に特化したトレーニングに取り組ませている。
- ・ 科学委員会と連携・協力し科学的データを活用させ強化に取り組んでいる。

(5) 第73回・第74回国民体育大会（福井・茨城）における男女混合4×400mリレー種目の追加について

山崎強化ディレクターより福井、茨城国体に置いて、男女混合4×400mRの種目の追加を日本体育協会へ要望することを報告する予定である。今後、日本体育協会にて国体小委員会が開かれ本件について、検討される。

その結果に応じて、各都道府県の強化責任者に本件に対する実施の意向についてアンケートが行われる可能性があるため、その際はご理解とご協力いただけるようお願いをした。

(6) 味の素ナショナルトレーニングセンター（以下、NTC）の利用について

東中NTC専任コーチングディレクターより利用方法についての説明があった。

- ・ 変更点として、食事を使用した際、個人で現金での支払いや、領収書の発行ができなくなったので、周知願いたい。



責任者会議の様相

ジャカルタ2018アジア競技大会  
トラック・フィールド種目別資格記録

男子				種目	女子			
東京オリンピックターゲット記録			アジアメダル期待記録		東京オリンピックターゲット記録			アジアメダル期待記録
メダル	BEST8	スタンダード			メダル	BEST8	スタンダード	
9.89	9.98	10.12	10.20	100m		11.03	11.26	11.45
19.91	20.12	20.44	20.77	200m		22.53	23.10	23.49
	44.71	45.50	45.87	400m		50.70	52.10	52.68
1.43.42	1.43.93	1.45.90	1.47.17	800m		1.58.73	2.01.00	2.02.63
	3.33.20	3.36.00	3.40.49	1500m		4.01.95	4.07.50	4.13.55
13.09	13.24	13.48	13.58	110mH 100mH	12.64	12.75	12.98	13.23
48.29	48.70	49.35	50.17	400mH		54.65	56.10	56.98
8.11.39	8.17.46	8.32.00	8.37.64	3000mSC	9.20.16	9.23.81	9.42.00	9.49.85
12.57.20	13.05.95	13.22.60	13.30.00	5000m	14.53.91	15.04.94	15.22.00	15.30.00
27.07.59	27.28.59	27.45.00	28.00.00	10000m	30.59.17	31.28.05	32.15.00	32.15.00
2.36	2.32	2.30	2.25	走高跳		1.97	1.94	1.89
5.79	5.75	5.70	5.49	棒高跳		4.66	4.55	4.14
8.33	8.25	8.15	7.95	走幅跳		6.85	6.75	6.46
17.39	17.14	16.80	16.76	三段跳		14.40	14.10	13.84
	20.93	20.50	19.52	砲丸投		18.84	17.75	17.01
	66.49	65.00	61.13	円盤投		64.37	61.20	58.01
	78.42	76.00	71.88	ハンマー投		73.61	71.00	61.55
85.97	85.18	83.00	80.42	やり投	65.08	64.01	61.40	58.26
8472	8316	8100	7577	十種競技 七種競技		6388	6200	5476

# 功労章・秩父宮章・高校優秀指導者章・中学優秀指導者章・勲功章・競技者育成章

2016年度功労章、秩父宮章、高校優秀指導者章、中学優秀指導者章、2017年度勲功章、競技者育成章を、第72回国民体育大会陸上競技会開催期間中の10月7日（土）、国体会場である愛媛県松山市の愛媛県総合運動公園陸上競技場（ニンジニアスタジアム）で授与致しました。下記にて受章者の方々を紹介致します。

## 2016年度功労章

（年齢・役職等は2017年3月31日現在）

区分	所属	氏名	年齢	役職
関東	栃木	小堀 信夫	76	栃木陸上競技協会 副会長
東海	三重	名古 岳彦	73	三重陸上競技協会 副会長
近畿	大阪	薬師寺茂夫	75	大阪陸上競技協会 副会長

## 2016年度秩父宮章

（年齢・役職等は2017年3月31日現在）

No.	地域	所属	氏名	年齢	役職
2080	北海道	北海道	瀬尾 広志	71	北海道陸上競技協会 副会長
2081	東北	青森	吉原 朋治	66	青森陸上競技協会 会長
2082	東北	秋田	北林 強	67	東北陸上競技協会 副会長
2083	東北	山形	鹿野 光正	79	山形マスターズ陸上競技連盟 副会長
2084	関東	茨城	櫻井 洋二	74	茨城陸上競技協会 会長
2085	関東	群馬	太田 栄治	75	(元)群馬陸上競技協会 理事
2086	関東	千葉	山本 達雄	87	(元)千葉陸上競技協会 理事
2087	関東	神奈川	前田憲一郎	66	神奈川陸上競技協会 常任理事
2088	関東	山梨	渡邊 正志	67	山梨陸上競技協会 副会長
2089	東京	東京	小松 邦江	72	東京陸上競技協会 理事
2090	北陸	新潟	深瀧 敬	71	長岡市陸上競技協会 顧問
2091	北陸	石川	池野 忠	73	河北郡陸上競技協会 理事長
2092	東海	長野	小坂 憲次	70	(元)長野陸上競技協会 会長
2093	東海	静岡	稲葉 勝巳	71	静岡陸上競技協会 副理事長
2094	東海	愛知	小島 末廣	70	愛知陸上競技協会 理事
2095	東海	三重	古西 敏彦	63	(元)三重陸上競技協会 総務部長・技術委員長
2096	近畿	京都	西村 慶治	62	京都陸上競技協会 常務理事
2097	近畿	兵庫	高橋 秀知	61	兵庫陸上競技協会 普及委員長
2098	近畿	奈良	森岡 正宏	74	奈良陸上競技協会 会長
2099	近畿	和歌山	山本 宜史	68	和歌山陸上競技協会 理事
2100	中国	鳥取	田中 宣彦	71	鳥取陸上競技協会 常務理事
2101	中国	広島	秋山 定之	63	広島陸上競技協会 常務理事
2102	中国	山口	和田 實	74	(元)山口陸上競技協会 会長
2103	四国	徳島	上田 善一	66	徳島陸上競技協会 理事
2104	四国	高知	刈谷 三郎	67	高知陸上競技協会 会長
2105	九州	福岡	河部 浩幸	77	九州陸上競技協会 名誉会長
2106	九州	長崎	山根 由之	78	長崎陸上競技協会 評議員
2107	九州	大分	大庭 富紀	79	日田市陸上競技協会 会長
2108	九州	鹿児島	田中 孝見	82	鹿児島陸上競技協会 参与
2109	本部	実業団	藤澤 修	76	(元)日本実業団陸上競技連合 理事
2110	本部	学連	永井 立子	71	(元)日本学生陸上競技連合 理事
2111	本部	マスターズ	黒木 通哲	67	日本マスターズ陸上競技連合 理事
2112	本部	競技運営委員会	小澤 清治	71	日本陸上競技連盟 競技運営委員会競技部委員
2113	本部	施設用器具委員会	大島 巖	64	日本陸上競技連盟 施設用器具委員会副委員長
2114	本部	科学委員会	川原 貴	65	日本陸上競技連盟 (元)科学委員会副委員長

## 2016年度高校優秀指導者章

(年齢・役職等は2017年3月31日現在)

No.	地域	氏名	年齢	陸上の地位	指導実績				
					選手名	年	大会名	種目	順位
1	北海道	高橋 巧	49	北海道高体連陸上競技専門部競技力向上委員長	水谷 司	2016	全国高校総体	三段跳	1位
2	青森	野呂 透	46	青森県高体連陸上競技専門部障害ブロック主任	工藤 千佳	2015	国民体育大会	100m	8位
3	岩手	八重樫 淳	38	岩手県高体連陸上競技専門部強化委員	佐々木愛斗	2014	全国高校総体	400m	3位
4	宮城	鷲 浩貴	52	宮城県高体連陸上競技専門部常任委員	川口 逸人	2010	全国高校総体	110mH	4位
5	秋田	中嶋 豊	39	秋田陸上競技協会強化部コーチ	安保有由里	2005	国民体育大会	砲丸投	5位
6	山形	奥山 恵	42	山形県立谷地高等学校陸上競技部顧問	宮田 涼	2011	世界ユース選手権	やり投	出場
7	福島	赤沼 健一	61	福島陸上競技協会事務局長	山下 潤	2015	全国高校総体	200m	2位
8	茨城	中根 宣子	57	茨城県高等学校体育連盟アナウンス部	西村 智宏	2010	国民体育大会	走幅跳	6位
9	栃木	長 房江	55	栃木県高体連陸上競技専門部員	佐々木悠紀子	2015	国民体育大会	100m	出場
10	群馬	齋藤 嘉彦	45	群馬県高体連陸上競技専門部400mH強化委員	白尾 悠祐	2016	全国高校総体	400mH	1位
11	埼玉	小堀 泰代	61	埼玉県立不動岡高等学校陸上競技部顧問	川島 優	2009	全国高校総体	棒高跳	1位
12	千葉	香取 憲吾	49	千葉県高体連陸上競技専門部副委員長	西宮 弘規	2010	全国高校総体	砲丸投	4位
13	東京	秋本 嘉一	58	東京都高体連陸上競技専門部会計監査	平松バブデンバ	2016	全国高校総体	110mH	3位
14	神奈川	竹田 道宏	59	神奈川陸上競技協会競技運営委員会記録部員	今井 開智	2012	全国高校総体	3000mSC	出場
15	山梨	津金 正俊	41	山梨県高体連陸上競技専門部跳躍コーチ	荘 久慧	2000	国民体育大会	三段跳	4位
16	新潟	松井 重徳	55	新潟県高体連陸上競技専門部副部長	阿部 敏明	2016	国民体育大会	円盤投	2位
17	富山	山本 正樹	47	富山県立富山商業高等学校陸上競技部顧問	山本龍太郎	2016	国民体育大会	5000mW	1位
18	石川	斉藤 智之	39	石川陸上競技協会強化部員	徳山 慧	2005	国民体育大会	三段跳	6位
19	福井	佐々木佐百合	48	福井県高体連陸上競技専門部総務副委員長	小堀 雅也	1993	全国高校総体	走高跳	出場
20	長野	大坪 章男	68	長野県立松川高等学校監督	高田 浩二	2001	全国高校総体	5000mW	1位
21	静岡	川口 雅司	56	静岡県高体連陸上競技専門部委員長	青山 福泉	2014	国民体育大会	5000mW	2位
22	愛知	服部 光幸	50	愛知県高体連陸上競技専門部委員	山田 翔雅	2016	全国高校総体	800m	1位
23	岐阜	堀江 俊男	56	(元) 岐阜陸上競技協会監察主任	堀江 勇輝	2014	日本ジュニア選手権	棒高跳	3位
24	三重	時田 潤也	41	三重県立亀山高等学校陸上競技部顧問	三村 幸輝	2009	全国高校総体	砲丸投	4位
25	滋賀	林 正晴	53	滋賀県高体連陸上競技専門部競技力向上委員長	金崎 広治	2004	国民体育大会	400m	5位
26	京都	竹岡 博幸	58	京都陸上競技協会理事	瀬津 尚子	1995	全国高校総体	走高跳	出場
27	大阪	江畑 憲一	56	大阪陸上競技協会跳躍強化コーチ	西嶋真祐実	1998	全国高校総体	走高跳	6位
28	兵庫	奥道 利浩	56	日本陸上競技連盟地域技術役員	吉田 明大	2016	日本ユース選手権	ハンマー投	1位
29	奈良	中井 光	58	奈良陸上競技協会副専務理事	小中 一正	2003	国民体育大会	400m	3位
30	和歌山	岩井 美紀	45	和歌山陸上競技協会理事・女子部長	武田優美香	2016	国民体育大会	円盤投	出場
31	鳥取	福富雄太郎	49	鳥取陸上競技協会国体コーチ	廣澤 里佳	2000	国民体育大会	5000mW	2位
32	島根	吾郷 孝彦	58	開星高等学校陸上監督	勝田 築	2016	全国高校総体	110mH	2位
33	岡山	有安 務	53	岡山県高体連陸上競技専門部委員長	小松 直生	2016	全国高校総体	1500m	8位
34	広島	山本 浩司	56	広島陸上競技協会強化委員会委員	菅 颯一郎	2016	日本ユース選手権	棒高跳	1位
35	山口	平山 俊洋	59	山口県立防府高等学校陸上競技部顧問	本多 浩隆	2001	国民体育大会	3000m	4位
36	徳島	川井 賢一	42	徳島陸上競技協会短距離コーチ	徳山 啓太	2005	日本ジュニア室内選手権	60mH	5位
37	香川	山本 雅典	52	香川陸上競技協会競技運営委員会審判部長	臼井 寛明	1995	全国高校総体	三段跳	6位
38	愛媛	石丸 皇士	47	愛媛県立松山北高等学校陸上競技部監督	一ノ宮健朗	2016	日本ユース選手権	800m	1位
39	高知	山中 裕子	33	高知陸上競技協会理事	黒岩星紗碧	2016	日本ジュニア選手権	400mH	7位
40	福岡	松藤 義文	54	福岡県立三池高等学校陸上競技部顧問	橋本亮太郎	2004	全国高校総体	400mH	7位
41	佐賀	高祖 保男	65	龍谷高等学校校外指導監督	野中 廉也	2016	全国高校総体	走高跳	6位
42	長崎	卜部 義信	58	長崎陸上競技協会監事	廣中璃梨佳	2016	国民体育大会	800m	2位
43	熊本	平川 貴浩	45	熊本県高体連陸上競技専門部競技力向上委員長	河津 真由	2016	全国高校総体	400m	8位
44	大分	小原 貴敬	44	大分陸上競技協会強化部投擲ブロック長	川述 優	2008	国民体育大会	やり投	出場
45	宮崎	内田 俊輝	44	宮崎県高校連陸上競技専門部委員	村富浩太郎	2015	日本ユース選手権	400mH	1位
46	鹿児島	中江 寿孝	41	鹿児島陸上競技協会記録部長	久保木春佑	2015	アジアユース選手権	走高跳	9位
47	沖縄	宮里 朝之	51	沖縄陸上競技協会強化部強化委員	松川 司	2014	全国高校総体	円盤投	出場



## 2016年度中学優秀指導者章

(年齢・役職等は2017年3月31日現在)

No.	地域	氏名	年齢	陸上の地位	指導実績				
					選手名	年	大会名	種目	順位
1	北海道	北村 裕美	40	上富良野中学校陸上競技部顧問	鈴木くるみ	2016	ジュニアオリンピック	100m	1位
2	青森	菊池 直樹	45	青森陸上競技協会強化部投てきブロック主任コーチ	菊池 聖奈	2016	ジュニアオリンピック	砲丸投	8位
3	岩手	田中 純也	34	岩手県中体連陸上競技部ハードルブロック主任	高杉 時史	2016	ジュニアオリンピック	100m	3位
4	宮城	白井 英利	50	宮城県中体連陸上競技部強化アドバイザー	早川 昇平	2007	全日本中学	1500m	出場
5	秋田	倉田 純人	56	秋田県中体連陸上競技部委員	児玉 楓夏	2015	東北中学陸上	200m	2位
6	山形	佐藤 敏	51	山形県中体連陸上競技部常任委員・強化スタッフ	高橋 辰壽	2016	全日本中学	四種競技	1位
7	福島	渡部 泰子	45	福島陸上競技協会ジュニア強化部ハードルブロックコーチ	添川 隆博	2002	ジュニアオリンピック	200m	2位
8	茨城	鎮目 真実	47	茨城県中体連陸上競技部跳躍コーチ(走幅跳)	宮嶋 優華	2015	全日本中学	100mH	3位
9	栃木	大輪 克哉	47	栃木県中体連陸上競技部委員	八木沢元樹	2007	全日本中学	800m	2位
10	群馬	中山 均	55	群馬県中体連陸上競技部記録委員会委員	白田 春佳	2014	全日本中学	走幅跳	3位
11	埼玉	田中 明子	60	埼玉陸上競技協会ジュニアコーチ	藤岡 孝彰	2007	ジュニアオリンピック	1500m	1位
12	千葉	白土 幸子	36	千葉県中体連陸上競技部庶務部長	風間 歩佳	2016	ジュニアオリンピック	3000m	1位
13	東京	福島 浩	54	北区陸上競技協会理事	重松 英憲	2010	全日本中学	200m	出場
14	神奈川	藤宮 学	51	(元)神奈川県中体連陸上競技部長	小林 直也	1999	全日本中学	110mH	3位
15	山梨	幡野 力也	45	山梨県中体連陸上競技部審判部長	内尾 将吾	2001	全日本中学	走幅跳	6位
16	新潟	渡邊 孝弘	41	新潟県中体連陸上競技部跳躍コーチ	後藤 瀧本 宮崎 土田	2016	全日本中学	4×100mリレー	8位
17	富山	金場 安史	45	富山県中体連陸上競技部委員	杉下 健	2016	県中学選手権	800m	1位
18	石川	新谷 豊	48	(元)石川県中体連陸上競技部地区委員	杉本 光咲	2005	全日本中学	100mH	7位
19	福井	山下 浩二	47	福井県中体連陸上競技部委員	濱野 陸矢	2010	ジュニアオリンピック	100m	3位
20	長野	酒井 剛	46	長野県中体連陸上競技部長	山本 大地	2007	ジュニアオリンピック	ジャバックスロー	6位
21	静岡	三輪 徹久	49	静岡陸上競技協会強化委員会強化主任	小野 真二	1998	全日本中学	棒高跳	1位
22	愛知	谷口 直土	44	愛知陸上競技協会選手強化委員会副委員長	橋本 佑輝	2008	全日本中学	棒高跳	8位
23	岐阜	岸 栄二	50	岐阜陸上競技協会中学部強化コーチ	安達 楓恋	2016	全日本中学	100mH	6位
24	三重	泉 恵子	53	玉城中学校陸上競技部顧問	白井 颯斗	2016	全日本中学	棒高跳	3位
25	滋賀	米田 博文	50	滋賀県中体連陸上競技部副部長	吉野 史織	2013	全日本中学	100m	1位
26	京都	宮原 泰隆	59	京都陸上競技協会常務理事	岩本 武	2011	全日本中学	110mH	出場
27	大阪	山口 忠広	54	大阪府中体連陸上競技部委員	郡 菜々佳	2011	ジュニアオリンピック	砲丸投	1位
28	兵庫	栗林 秀行	59	兵庫県中体連陸上競技部審判長	伊東 浩司	1984	ジュニアオリンピック	400m	1位
29	奈良	桐生 悦実	55	奈良県中体連陸上競技部投擲審判	川畑 夏唯	2011	全日本中学	四種競技	4位
30	和歌山	芝 裕二	49	和歌山県中体連陸上競技部総務副委員長	玉置 将吾	2011	全日本中学	110mH	出場
31	鳥取	梅津 浩治	46	鳥取県中体連陸上競技部長距離コーチ	井上 錬	2012	大阪室内陸上	800m	6位
32	島根	藤井 教夫	52	島根県中体連陸上競技部跳躍コーチ	大下 愛梨	2016	全日本中学	100mH	出場
33	岡山	渡辺 次郎	57	岡山県中体連副会長	王野 裕貴	2009	岡山上競技カーニバル大会	三段跳	3位
34	広島	畠山 洋二	58	広島陸上競技協会情報処理委員会副委員長	大地 智也	2016	国民体育大会	砲丸投	5位
35	山口	木原 由美	59	国府中学校陸上部顧問	森廣 彩音	2015	全日本中学	1500m	5位
36	徳島	山本 昌	45	徳島陸上競技協会跳躍コーチ	多田幸太郎	2016	四国中学校体育大会	砲丸投	1位
37	香川	山本 和博	37	香川県中体連陸上競技部	齋藤 遥	2014	全日本中学	走幅跳	出場
38	愛媛	清家 秀樹	44	重信中学校陸上競技部顧問	池田 唯人	2016	全日本中学	110mH	出場
39	高知	堀岡 孝文	42	高知県中体連陸上競技部長	北岡紗耶香	2014	ジュニアオリンピック	砲丸投	6位
40	福岡	因 広道	57	古賀北中学校陸上部顧問	西 恭平	2006	全日本中学	3000m	4位
41	佐賀	岡 孝一郎	52	(元)佐賀中体連陸上競技部委員	横山・小池・尾形・藤山	2010	九州中学校陸上大会	4×100mリレー	7位
42	長崎	定方 次男	52	(元)桜が原中学校陸上部長距離コーチ	林田 洋翔	2016	全日本中学	3000m	1位
43	熊本	松村 誠	50	熊本県中体連陸上競技部コーチ	井手上大翔	2016	全日本中学	砲丸投	1位
44	大分	神崎 正吉	47	大分県中体連陸上競技部総務員	遠入 剛	2016	全日本中学	3000m	出場
45	宮崎	松下 清美	45	宮崎県中体連陸上競技競技部会計	巢立 美樹	2007	全日本中学	800m	1位
46	鹿児島	上岡 洋輔	39	鹿児島陸上競技協会記録部副部長	佐田 征義	2015	全日本中学	四種競技	1位
47	沖縄	大城 勝也	49	知念中学校陸上競技部顧問	知念 良太	2015	沖縄県ジュニアオリンピック大会	ジャバックスロー	1位

## 2017年度勲功章

氏名	所属	種目	内容
荒井 広宙	自衛隊体育学校	男子50km競歩	第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン) 2位
多田 修平	関西学院大学	男子4×100mリレー	第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン) 3位 第29回ユニバーシアード競技大会(2017/台北) 1位
飯塚 翔太	ミズノ	男子4×100mリレー	第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン) 3位
桐生 祥秀	東洋大学	男子4×100mリレー	第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン) 3位
藤光 謙司	ゼンリン	男子4×100mリレー	第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン) 3位
ケンブリッジ 飛鳥	Nike	男子4×100mリレー	第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン) 3位
小林 快	ビックカメラ	男子50km競歩	第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン) 3位
丸尾 知司	愛知製鋼	男子50km競歩	第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン) 5位
サニブラウン アブデルハキーム	東京陸上競技協会	男子200m	第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン) 7位
片西 景	駒澤大学	男子ハーフマラソン	第29回ユニバーシアード競技大会(2017/台北) 1位
山西 利和	京都大学	男子20km競歩	第29回ユニバーシアード競技大会(2017/台北) 1位
田中 佑典	日本ウェルネススポーツ大学	男子4×100mリレー	第29回ユニバーシアード競技大会(2017/台北) 1位
北川 翔	順天堂大学	男子4×100mリレー	第29回ユニバーシアード競技大会(2017/台北) 1位
山下 潤	筑波大学	男子4×100mリレー	第29回ユニバーシアード競技大会(2017/台北) 1位
棟久 由貴	東京農業大学	女子ハーフマラソン	第29回ユニバーシアード競技大会(2017/台北) 1位
渡邊 正義	自衛隊体育学校	—	荒井広宙の指導者
林 直也	関西学院大学	—	多田修平の指導者
豊田 裕浩	中央大学	—	飯塚翔太の指導者
土江 寛裕	東洋大学	—	桐生祥秀の指導者
安井 年文	青山学院大学	—	藤光謙司の指導者
瀧野 辰雄	日本大学	—	ケンブリッジ飛鳥の指導者
児玉 泰介	愛知製鋼	—	丸尾知司の指導者
レイナ レイダー	レイナ スポーツ パフォーマンス	—	サニブラウン アブデルハキームの指導者
大八木弘明	駒澤大学	—	片西景の指導者
内田 隆幸	愛知製鋼	—	山西利和の指導者
菱沼 篤志	日本ウェルネススポーツ大学	—	田中佑典の指導者
越川 一紀	順天堂大学	—	北川翔の指導者
谷川 聡	筑波大学	—	山下潤の指導者
長田 千治	東京農業大学	—	棟久由貴の指導者

## 2017年度競技者育成章

氏名	所属	内容
荻原 信幸	長野県立上田東高校	荒井広宙の高校時代の指導者
内田 隆幸	小松短期大学	荒井広宙の大学時代の指導者
高井 綾子	大阪府立交野支援学校四条畷校	多田修平の中学校時代の指導者
花牟禮 武	大阪桐蔭高校	多田修平の高校時代の指導者
清 尊徳	藤枝明誠高校	飯塚翔太の高校時代の指導者
佐藤 常保	(元) 藤枝明誠高校	飯塚翔太の高校時代の指導者
億田 明彦	米原市立米原中学校	桐生祥秀の中学校時代の指導者
高澤 正夫	聖学院大学	藤光謙司の高校時代の指導者
山内 悠介	大館市長木小学校	小林快の中学校時代の指導者
大友 貴弘	秋田県立秋田工業高校	小林快の高校時代の指導者
中島 道雄	大阪高校	丸尾知司の高校時代の指導者
森川 嘉男	(元) 尼崎市立尼崎高校	丸尾知司の高校・大学時代の指導者

# 陸上競技研究紀要投稿募集について

毎年指導者への有益な情報の提供を目的に、陸上競技研究紀要を毎年発行しています。

内容は、みなさまからの投稿論文、特集企画、科学委員会の研究報告、  
医事委員会からのレポートなどで構成しています。

3月中の発行を予定しております、公認スポーツ指導者資格有資格者などへ配布しています。

2018年1月末日締切で投稿論文を募集していますので、奮ってご応募ください。

## 「陸上競技研究紀要」 (Bulletin of Studies in Athletics of JAAF) 投稿規定

陸上競技研究紀要編集委員会

### 1. 投稿資格について

特に制限は設けない。

### 2. 投稿内容および種類について

投稿内容は陸上競技についての理論と実践に関するもので、  
内容に応じて、総説、原著、資料、指導法および指導記録の報  
告などに分類される。スタイルは和文、英文のどちらでもよい。

投稿論文には上記の投稿種別を明記し、英文のタイトル、著  
者、所属、総説および原著には要約（150語以内）をつける。

（注：何らかの理由で英文要約等の作成が困難な場合は、編集  
委員会にその旨をご相談ください）

### 3. 採否等について

原稿は査読を行い、査読結果をもとに採否および掲載順序の  
決定、校正などは編集委員会が行う。

### 4. 原稿の書き方について

原稿は原則として、ワードプロセッサで作成する。本文は、  
横42文字×縦38字で1頁とする。（1頁は約1600字、刷り上が  
り10頁以内、図表もその頁数に含む、すべて白黒にて作成）

英文は、A4サイズタイプ用紙を使用し、15枚以内を原則とする。

計量単位は、原則として国際単位系（m, kg, secなど）とする。

また、英文字および数字は半角とする。

### 5. 文献の書き方について

本文中の文献は、著者（発行年）という形式で表記する。

例）田中（1996）は -----

文献は、原則として、本文最後に著者名のABC順で記載  
する。書誌データの記載方法は、著者名（発行年）、論文名、  
誌名、巻（号）、ページの順とする。

例）吉原 礼、武田 理、小山宏之、阿江通良（2006）女子  
棒高跳選手の跳躍動作のバイオメカニクスの分析。陸上  
競技研究紀要、2：58-64。

伊藤 宏（1992）陸上競技の発育・発達。陸上競技指導  
教本—基礎理論編—。日本陸上競技連盟編、大修館書店、  
55-72。

同一著者、同発行年の文献を複数引用した場合は発行年の  
後にa,b,cをつける。

例）田中ら（1996 b）は、-----

### 6. 原稿の提出先

投稿原稿（本文、図表など）は、下記へE-mailの添付資料  
として送付するとともに、プリントしたものを1部を郵送する。

〒163-0717

東京都新宿区新宿2-7-1

小田急第一生命ビル17階

日本陸上競技連盟

「陸上競技研究紀要」編集委員会宛

（Tel 03-5321-6580 Fax 03-5321-6591）

E-mail: kiyou@jaaf.or.jp

### 7. 原稿の締め切り

原稿の締め切りは特に設けず、随時受理し、査読を行う。た  
だし、2017年度版は、2018年1月末日とする。

### 8. その他

本研究紀要に掲載された内容の著作権は公益財団法人日本陸  
上競技連盟に帰属する。

（2017年12月 改訂）





# マラソンメディスンセミナー2017報告

理事・医事委員長 山澤文裕

2013年から毎年開催しているマラソンメディスンセミナーを、本年は10月29日(日)に日本陸連会議室で行いました。マラソン大会を開催し、適切な医療体制を構築することは、バイスタンダー CPR (心肺蘇生法) を実施できる人が地域に増えることで、地域の救急・救命活動のレベルアップに繋がります、さらにマラソン大会の安全安心が高まるという好循環を生み出します。その観点からも、マラソンメディスンセミナーは大変に有意義な社会貢献になってきたと考えられます。

今回のセミナーアジェンダは下表の通りです。陸連が行っていることについての確認を行い、危機管理、さらには国際陸連の取り組みなど、幅広い内容となりました。

まず、陸連が行っていることとして、ルール、安全管理体制についてのガイドラインなどを羽田雄一競技運営委員が講演しました。助力についてのルールでは、医療スタッフによる診療・治療・理学療法は助力とならないと記載されているが、これは競技場内での種目を前提に規定されており、ロードレースなどの広域にわたる競技では医療スタッフが直ちに現場に到着できないため、医療スタッフが到着するまで、監査員や走路管理員などの競技役員に医療スタッフの権限の一部を委託し、競技役員が競技者の状態を確認するために一時的に競技者の身体にふれても助力とはみなさないとされました。市民マラソン・ロードレース運営ガイドライン (<http://www.jaaf.or.jp/rikuren/pdf/road.pdf>) を活用し、事前準備と現場での対応を確認することとされました。

申し込み時健康チェックリスト、スタート前チェックリスト、マラソン参加10か条について向井直樹医事副委員長が講演しました。マラソン参加10か条 ([http://www.jspfsm.umin.ne.jp/guideline/marathon\\_10.pdf](http://www.jspfsm.umin.ne.jp/guideline/marathon_10.pdf)) は、健康管理、トレーニング、大会参加の心構えについて記載し、自らの健康管理とトレーニング管理ができる人がマラソンに参加できるというのが趣旨になっています。

真鍋知宏医事委員はマラソン大会における心肺停止事例報告について報告しました。日本陸連マラソン公認コースのマラソン大会における心肺停止事例についての6年間の調査で、約290万人が参加し心肺停止は45例(男性43例、女性2例)で、死亡事例が1名ありました。これは多くの大会のご協力の賜物であり、貴重なデータです。さらに、日本臨床スポーツ医学会が実施している、すべてのスポーツにおける心肺停止事例調査(J-SPORTSCAR Study)の紹介がなされ、心肺停止の現状、発症時の状況、競技の特殊性を把握し、予防や医療体制の整備を行うことが目標であるとされました。

マラソン大会と危機管理について、山澤文裕医事委員長が講演しました。マラソン大会開催者には安全配慮・対策が問われ、医療救護チームの使命には心肺停止などの重症者に対する救命処置のほかにもマスクジュアリティ(集団災害)も含まれるとしました。集団災害時の医療活動に当たり重要なキーワードとして、CSCATTT(指揮命令)、S:safety(安全)、C:

communication(連絡)、A:assessment(状況評価)、T:triage(治療優先順位選別)、T:treatment(治療)、T:transfer(搬送)、の順に対応することを認識してください。また、大会主催者は、参加選手および競技会スタッフなどの競技会に関連して発生した疾病や傷害の医療費をカバーする疾病傷害保険への加入が望ましいことが強調されました。

国際陸連技術委員の関幸生氏が国際陸連(IAAF)ラベル対象マラソン大会での医事チェック項目について解説しました。IAAFラベル対象認定の主な条件に、各国からの参加選手の条件や、招待選手のタイム設定の他に、ドーピング検査・給水・医事があり、IAAF技術代表が大会を視察し、大会がステータスの要件を満たしているかを確認しレポートを提出しているとのことでした。レポート内容は医事に関する事柄が26.7%と多くを占め、フィニッシュでの医療救護スタッフの人数、車いすやストレッチャーの数、フィニッシュで倒れた選手の移送、フィニッシュの医療施設、ACLS(二次心肺蘇生法)対応救急車がフィニッシュやコース沿いをカバーしているか、WBGTによる色などで暑熱による傷病を軽減しているか、緊急時連絡やアレルギーなどの医療情報をナンバーカード裏に記載するようになっているか、などが含まれ、IAAFがマラソン大会の安全性に留意しはじめたことがわかる内容でした。

最後に、救護所の閉鎖時間、参加者の保険、IT化、スプレー使用、Jアラート発令時の対応など、様々な点について全体討論を行いました。今回、初めてセミナーに参加されたマラソン大会関係者もあり、日本陸連の取り組みを基にマラソン大会の医療体制について再考していただく良い機会となりました。折しも、台風22号が関東に接近するという悪天候の中でありましたが、参加を予定されていたほとんどの方々が出席され、このセミナーを通して種々の知見を得てマラソン大会の安心性、安全性を高めていくという熱気にあふれたセミナーとなりました。参加された皆様に感謝申し上げます。

## セミナーアジェンダ

司会 向井直樹

1. 陸連挨拶 山澤文裕
2. 陸連が行っていること ①羽田雄一、②向井直樹  
①ルール、審判ハンドブック、マラソンの安全管理体制についてのガイドライン  
②申し込み時健康チェックリスト、スタート前チェックリスト、マラソン参加10か条
3. マラソン大会における心肺停止事例報告とJ-SPORTSCAR Studyについて 真鍋知宏
4. マラソン大会と危機管理 山澤文裕
5. 国際陸連ラベル対象マラソン大会での医事チェック項目 関幸夫
6. アンケート調査報告と大会組織委員会のあるべき姿 山澤文裕
7. 全体討論会 マラソン大会のより良い医療救護体制のために

# 第26回日本陸上競技連盟トレーナーセミナー開催案内

## 陸上競技現場で活動するトレーナーのためのセミナー

1992年、日本陸上競技連盟医事委員会トレーナー部は、1) 陸上競技における選手サポート体制の確立、2) トレーナーの意識、知識、技術の向上、3) トレーナーの地位確立、を主旨として設立されました。

トレーナー部では毎年「日本陸上競技連盟トレーナーセミナー」を開催しており、今回で26回目を迎えます。すでに多くの方がトレーナー部部員として、日本各地で地域に根ざしたトレーナー活動や、トップアスリートが参加する国内外の競技大会における救護活動やコンディショニングなど、幅広いサポート活動を行っています。またセミナー修了者を対象に年1～2回の研修会も開催しています。

第26回セミナーは以下の要領で開催いたします。受講希望の方は申込方法に従ってお申込下さい。

### 記

**主催**：公益財団法人日本陸上競技連盟

**運営**：公益財団法人日本陸上競技連盟 医事委員会 トレーナー部

**期日**：2018年3月23日（金）～25日（日）（3日間）

**場所**：味の素 ナショナルトレーニングセンター 研修室

**参加費**：¥25000（教材費込み）

**定員**：100名（先着順）

**参加資格**：①現在陸上競技の現場に携わっている方（治療院・病院のみの活動では不可）

②救急法に関する資格を保有、もしくは救急法に関する講習等に参加したことがある方。

かつ、他人の助力なしに一人で救護活動ができる方。

③3日間全日程を受講できる方

**申込方法**：日本陸上競技連盟医事委員会トレーナー部のページの、お申込みフォームに必要事項を記載し、お申し込みください。

\*サイトは1月5日（金）よりオープン致します

\*記載に漏れがある場合は、申込を受諾できませんのでご注意ください。

**申込みHP**：<http://www.jaaf.or.jp/about/resist/trainer/>

**受付開始**：2018年1月5日（金）

**締め切り**：2018年1月22日（月）

受講受付は基本的に先着順とします。また、お申し込みが定員以上で、同一所属団体（学校）からのお申し込みが多数の場合、所属団体内での調整をお願いする場合がありますので、予めご了承ください。

\*定員を超えた場合は、陸上競技現場での活動状況により、お断りすることがあります。

\*2月下旬迄に参加の採否をメールにて通知させていただきます。

\*お問い合わせは、E-Mailにて、日本陸連トレーナーセミナー係、担当村田まで。

その際、件名に「第26回トレーナーセミナーについて」と記載してください。

**E-mail**：trainer-kensyu@jaaf.or.jp

### 〈カリキュラム〉

「トレーナーガイダンス」

「健康管理」

「ドーピング・コントロール」

「整形外科－体幹・脊柱－」

「整形外科－下肢－」

「整形外科－上肢－」

「婦人科疾患」

「栄養学」

「バイオメカニクス」

「コンディショニング」

「アスレティックリハビリテーション」

「救急法」

\*講師は本連盟医事委員会委員のドクター、トレーナー部委員を予定しています

# 第23回JAAFコーチング・クリニック

## 参加者募集

例年、指導者の皆様から大変好評をいただいております「JAAFコーチング・クリニック」を今年度は「女性指導者のためのコーチング・クリニック」に引き続き、「第23回JAAFコーチング・クリニック」を2018年2月10日（土）10：00～16：00味の素ナショナルトレーニングセンターにて開催いたします。

詳細は決定次第、日本陸連HPに掲載させていただきます。適宜ご確認ください。

### 詳細

日 程：2018年2月10日（土）10：00～16：00（9：30受付 昼食1時間）

会 場：味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）

参 加 者：JAAF公認ジュニアコーチ（日体協公認指導員）

JAAF公認コーチ（日体協公認コーチ）

中学・高校・大学・実業団の指導者

定 員：100名

参加費用：JAAF公認指導者資格有資格者 5,000円

それ以外の方 7,000円

申込方法：申込受付は詳細が決定次第、陸連HPに掲載いたします。

定員（先着100名）に達し次第締め切ります。

※お申込みはインターネットのみとなりますので予めご了承ください。

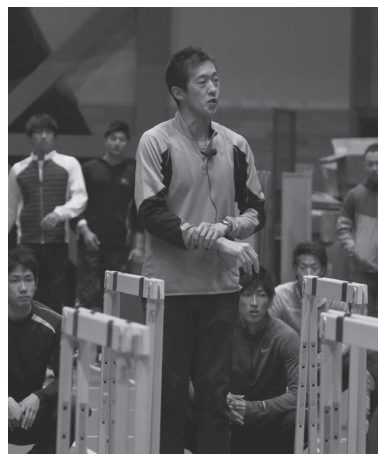
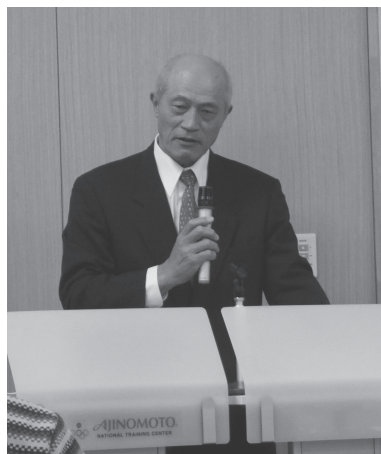
問合せ：日本陸上競技連盟 「コーチング・クリニック係」

TEL：03-5321-6580（平日 10：00～18：00） 担当：山口・八幡・磯貝

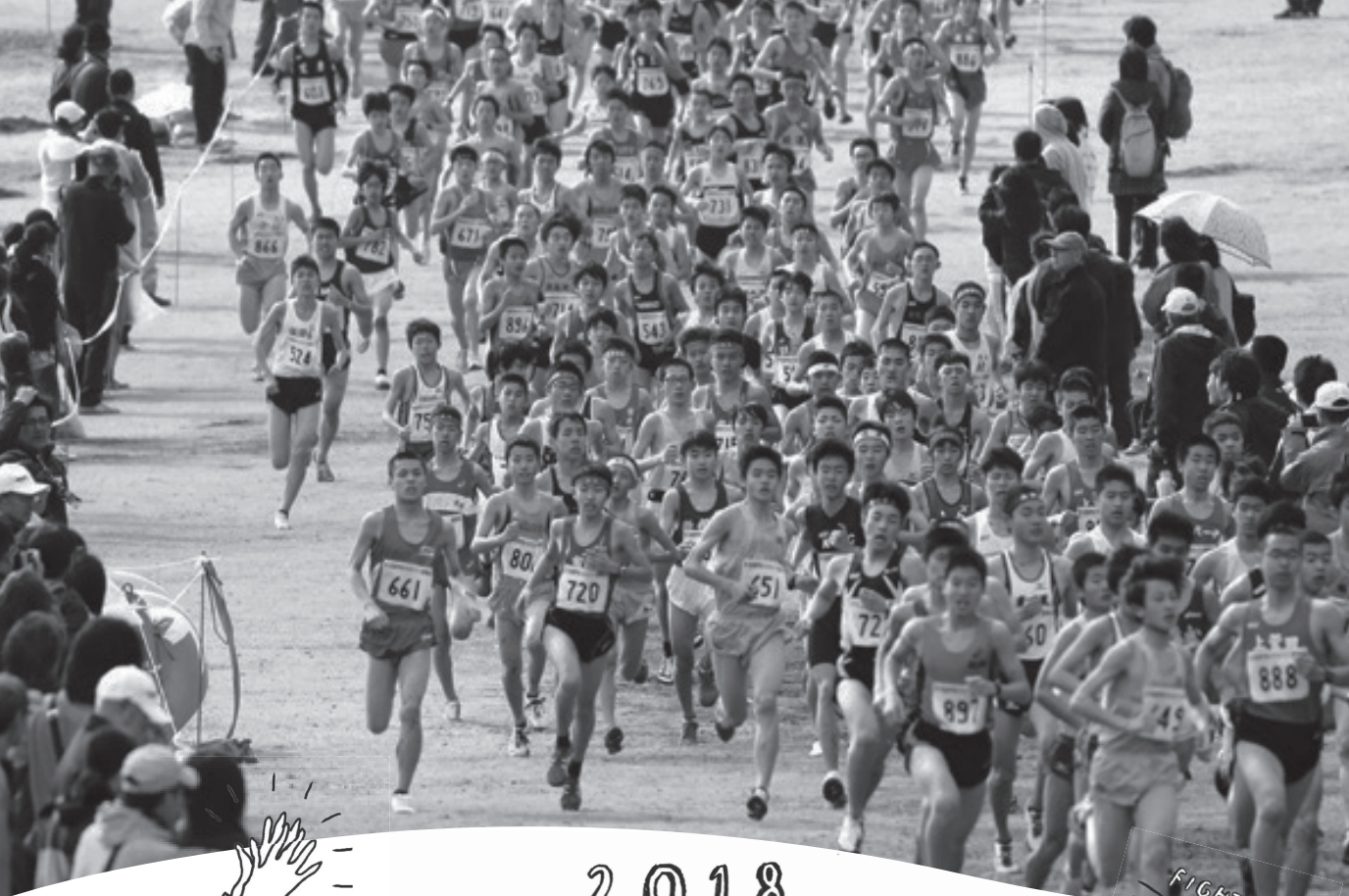
FAX：03-5321-6591

E-mail：coach@jaaf.or.jp

### ▼過去開催写真





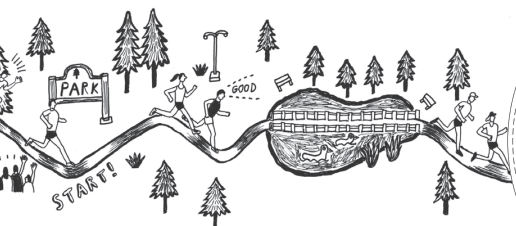


X RUN  
CHIBA

# 2018 X-RUN CHIBA

クロスカントリー大会

## 第3回全国中学生 クロスカントリー選手権大会



2018.2.4

@千葉市

「昭和の森」

千葉市緑区土気町22  
最寄: JR外房線・土気駅



【募集種目】

中学生選手権男子 3km (定員: 500名)

中学生選手権女子 3km (定員: 500名)

エントリー締切: 1月8日(月) 23:59

定員になり次第締切

参加資格: 2017年度日本陸上競技連盟登録者、かつ2002年4月2日~2005年4月1日生まれの男女で中学校に在籍している選手。

参加申込: ウェブサイト「e-moshicom(イーモシコム)」からお申込みください。

インターネットからのエントリーのみとなり、その他、電話などでの受付はしていませんのでご了承ください。

主催: 日本陸上競技連盟  
後援: スポーツ庁、公益財団法人日本中学校体育連盟、千葉県、千葉県教育委員会  
公益財団法人千葉県体育協会、千葉市、千葉市教育委員会、毎日新聞社、スポーツニッポン新聞社  
主管: 千葉陸上競技協会  
協力: 東日本旅客鉄道株式会社、株式会社明治、オトナのタイムトライアル実行委員会



詳しくは

千葉クロ

で検索



# 2017数字で見る陸上競技Vol.3 都道府県別日体協公認指導者数(陸上競技)

事務局

2017数字で見る陸上競技、3回目の今回は陸上競技における  
日本体育協会公認スポーツ指導者資格有資格者数(都道府県別、資格別)をご紹介します。  
なお、今回ご紹介する数字は、2017年11月16日付け登録者数です。

NO.	所属都道府	JAAF公認ジュニアコーチ		JAAF公認コーチ		合計
		指導員	上級指導員	コーチ	上級コーチ	
1	北海道	53	0	14	8	75
2	青森	27	2	10	5	44
3	岩手	36	0	22	7	65
4	宮城	36	0	9	2	47
5	秋田	31	0	9	0	40
6	山形	77	0	19	5	101
7	福島	117	0	28	3	148
8	茨城	33	0	25	11	69
9	栃木	28	0	17	4	49
10	群馬	72	1	22	3	98
11	埼玉	136	2	41	14	193
12	千葉	82	3	40	11	136
13	東京	213	4	58	24	299
14	神奈川	124	0	28	8	160
15	山梨	29	12	13	4	58
16	新潟	60	5	25	5	95
17	富山	83	0	11	1	95
18	石川	43	1	10	3	57
19	福井	52	0	18	2	72
20	長野	39	2	31	5	77
21	静岡	94	7	26	5	132
22	愛知	70	0	34	5	109
23	岐阜	34	5	17	4	60
24	三重	75	1	25	4	105
25	滋賀	42	0	25	4	71
26	京都	40	0	29	5	74
27	大阪	101	3	15	4	123
28	兵庫	74	1	19	2	96
29	奈良	28	0	13	2	43
30	和歌山	72	0	9	5	86
31	鳥取	42	0	7	4	53
32	島根	13	0	6	3	22
33	岡山	33	0	15	5	53
34	広島	108	3	19	8	138
35	山口	50	2	13	5	70
36	徳島	20	1	7	1	29
37	香川	38	0	20	3	61
38	愛媛	32	0	19	7	58
39	高知	34	1	17	1	53
40	福岡	84	2	12	8	106
41	佐賀	31	1	10	2	44
42	長崎	45	8	15	2	70
43	熊本	31	0	14	6	51
44	大分	40	15	15	2	72
45	宮崎	74	2	17	0	93
46	鹿児島	65	0	24	2	91
47	沖縄	26	1	3	3	33
合計		2767	85	895	227	3974



# 大会観戦ガイド

## 男子第68回 女子第29回 全国高等学校駅伝競走大会

師走の都大路を走る全国高校駅伝。今年、優勝するのはどのチームになるのでしょうか。是非、沿道、競技場で応援ください！

▼日時：2017年12月24日（日）

女子10時20分スタート

男子12時30分スタート

▼会場（スタート・フィニッシュ）：

京都府・京都市西京極総合運動公園陸上競技場

▼アクセス：京都駅より

- ・阪急電鉄京都線西京極駅から徒歩10分
- ・京都市営バス73号系統「西京極運動公園前」下車徒歩5分

▼区間・コース：

〈男子〉男子全国高校駅伝コース7区間42.195km

- ・第1区10km（西京極陸上競技場－烏丸鞍馬口）
- ・第2区3km（烏丸鞍馬口－丸太町河原町）
- ・第3区8.1075km（丸太町河原町－国際会館前）
- ・第4区8.0875km（国際会館前－丸太町寺町）
- ・第5区3km（丸太町寺町－烏丸紫明）

・第6区5km（烏丸紫明－西大路下立売）

・第7区5km（西大路下立売－西京極陸上競技場）

〈女子〉女子全国高校駅伝コース5区間21.0975km

・第1区6km（西京極陸上競技場－平野神社前）

・第2区4.0975km（平野神社前－烏丸鞍馬口）

・第3区3km（烏丸鞍馬口－室町小学校前折返し－北大路船岡山）

・第4区3km（北大路船岡山－西大路下立売）

・第5区5km（西大路下立売－西京極陸上競技場）

▼テレビ放映予定：NHK総合テレビ

12月24日（日）10時05分～11時54分（女子）

解説：鯉川なつえ

12時15分～14時55分（男子）解説：尾方剛

▼ラジオ放送予定：NHKラジオ第一

12月24日（日）10時05分～11時55分（女子）

解説：小林祐梨子

12時15分～15時00分（男子）解説：揖斐佑治

▼大会公式サイト：

<http://www.koukouekiden.jp/>

▼問合せ先：全国高等学校駅伝競走大会事務局

（京都府立北嵯峨高等学校）

TEL / FAX 075-865-2700



昨年度の大会は、男子が倉敷高校、女子は大阪薫英女学院高校が優勝

## 皇后盃 第36回全国都道府県対抗 女子駅伝競走大会

新春の都大路で競う皇后盃全国女子駅伝。47都道府県を代表する中学生から一般までの選手に、是非、沿道、競技場でご声援ください！

▼日時：2018年1月14日（日）12時30分スタート

▼会場（スタート・フィニッシュ）：

京都府・京都市西京極総合運動公園陸上競技場

▼アクセス：西京極総合運動公園陸上競技場

・阪急電鉄京都線西京極駅から徒歩10分

・京都市バス32号・73号・80号系統「西京極運動公園前」下車徒歩5分

▼区間・コース：9区間42.195km

・第1区6km（西京極陸上競技場－平野神社前）

・第2区4km（平野神社前－烏丸鞍馬口）

・第3区3km（烏丸鞍馬口－丸太町河原町）

・第4区4km（丸太町河原町－北白川山田町）

・第5区4.1075km（北白川山田町－国立京都国際会館前）

・第6区4.0875km（国立京都国際会館前－北白川別当町）

・第7区4km（北白川別当町－丸太町寺町）

・第8区3km（丸太町寺町－烏丸紫明）

・第9区10km（烏丸紫明－西京極陸上競技場）

▼テレビ放映予定：NHK総合テレビ

1月14日（日）12時15分～

▼ラジオ放送予定：NHKラジオ第一

1月14日（日）12時15分～

▼大会公式サイト：

<http://www.womens-ekiden.jp/>

▼問合せ先：皇后盃全国都道府県対抗女子駅伝事務局  
（京都新聞COM事業局内）

TEL 075-213-0367 / FAX 075-241-5271



昨年度の大会は、京都が16回目の優勝を果たした

## 天皇盃第23回全国都道府県対抗 男子駅伝競走大会

新春の安芸路で競う天皇盃全国男子駅伝。47都道府県を代表する中学生から一般までの選手に、是非、沿道でご声援ください！

▼日時：2018年1月21日（日）12時30分スタート

▼コース：広島市平和記念公園前を出発、平和大通り、宮島街道を西進し、JR前空駅東（廿日市市大野）を折り返し、平和大通り、城南通りを経由、広島市平和記念公園前を決勝とする7区間、48.0kmのコース。

▼アクセス：広島市平和記念公園

JR広島駅から南口バス乗り場A-3ホームより、広島バス24号線吉島営業所または吉島病院行き「平和記念公園」下車、広島電鉄「袋町」下車徒歩10分、「原爆ドーム前」下車徒歩10分

▼区間・コース：7区間48.0km

・第1区7km（広島市平和記念公園前－広電井口駅東）

・第2区3km（広電井口駅東－海老園交差点）

・第3区8.5km（海老園交差点－宮島口ロータリー）

・第4区5km（宮島口ロータリー－JR阿品駅南）

・第5区8.5km（JR阿品駅南－広島工大高前）

・第6区3km（広島工大高前－草津橋）

・第7区13km（草津橋－広島市平和記念公園前）

▼テレビ放映予定：NHK総合テレビ

1月21日（日）12時15分～

▼ラジオ放送予定：

RCC

1月21日（日）

12時15分～

▼大会公式サイト：

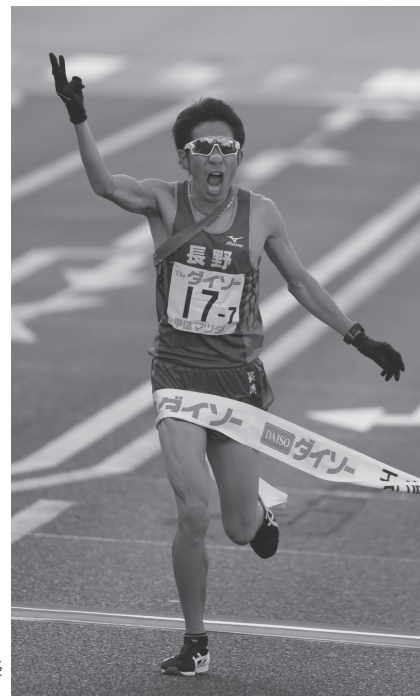
<http://www.hiroshima-ekiden.com/>

▼問合せ先：

天皇盃全国男子駅伝事務局

TEL082-292-0601 /

FAX082-292-0680



昨年度の大会は、長野が7回目の優勝を果たした



## JAAF HOKKAIDO 一般財団法人北海道陸上競技協会

〒003-0626 札幌市白石区本通5丁目南4番11号  
 KJビル3号棟2階205  
 TEL.011-598-7407 FAX.011-598-7408  
<http://hokkaido-rikkyo.jp/>

一般財団法人北海道陸上競技協会の充実・発展に向けて  
 平成29年6月の評議員会をもって一般財団法人北海道陸上競技協会会長に就任いたしました。長い歴史と伝統を誇る本協会の恥取りの重責を感じるとともに、前会長はじめ役員、関係機関、団体の皆様のご指導・ご支援のもと、職責を果たしてまいり所存であります。この十数年北海道陸上競技界を振り返りますと、特にジュニア層、中学・高校の優秀な選手のみならず、活躍が継続的に見られております。その延長上、道外で我が国第一線の競技者として名を馳せる選手が多く、一方、道内に定着して着実なトレーニングを重ね、日本記録を競い出す華々しい選手が君臨するなど、本道は、近年のオリンピックメダリストをはじめ世界で活躍する多くのトップアスリートを輩出してあります。北国北海道が、冬季の厳しいハンディを克服して他都府県を圧倒する素晴らしい成績を上げていることは誇らしい限りであり、選手の努力はもとより関係者の熱意ある努力の賜と心から敬意を表し感謝を申し上げます。このような本道陸上競技界の着実な充実・発展の背景には、歴代の役員をはじめ多くの指導者、公認審判員など関係者一人一人の弛まぬ努力があることはもとより、近年、組織運営上の課題や問題点を真摯に受け止め、紆余曲折の中で検討、解決を図り、一般財団法人として組織的・財政的基盤を確立するに至った経緯、苦難があったことも共通の認識が肝要です。今後とも、陸上競技のもつ魅力や素晴らしさを道民の皆様に残存に味わっていただくよう全ての競技者・愛好者のための環境を一層充実・発展させることが、本協会の永遠の目標であり、役員はもとより、各地方陸協会員一丸となって本道陸上競技の一層の向上・飛躍を組織的な連携のもと目指してまいります。引き続き従前以上のご協力・ご支援をお願い申し上げます。(文責：会長 八田盛茂)

## JAAF AOMORI 一般財団法人青森陸上競技協会

〒038-0021 青森市安田字近野234-7  
 青森総合運動公園陸上競技場内  
 TEL.0173-34-7537 FAX.0173-34-7537  
<http://www.jomon.ne.jp/arikkyo/>

トラック&フィールドの県内競技会も全て終わりました。2017年度は東北中学校陸上大会の本県での開催も予定通りに開催できました。今後の事業予定と致しましては、男子・女子それぞれの全国都道府県対抗駅伝に向けて12月後半には、毎年のことではありますが、男女とも20番台を目指して県外強化合宿を予定しております。特に女子には奮起をのぞみます。また、1月後半から2月には全国大会入賞可能性のある選手を選抜し沖縄県での強化合宿を予定しております。会議としては、2月4日には理事会、2月18日には評議員会を開催予定です。2月の理事会では、議案として事業中間報告と新年度事業計画及び女子部の廃止と協会役員の定年制の見直しを協議したいと考えております。女子部については、協会の運営と事業実施の面から可否について検討したいと思います。2017年度は、小学生競技者のナンバー登録を致しました。ナンバーカードを無償で配布しましたが経費的に登録以上の支出が多く、2018年度はナンバーカード代は必要経費として徴収する予定です。事務的な手続きとして、選手が県外大会に出場する際に日本陸連で登録陸協の出場認給書の提出を規定していますが、出場する大会日前前になってからの申請が多く見られました。選手の中にはこの規定を知らない競技者もいます。できることであれば、この規定は廃止して頂きたいと思っております。新陸上競技場の工事も爾々と進んでおります。2018年完成予定ですが、競技会開催については2019年9月以降と予想しております。(文責：理事長 安田信昭)

## JAAF IWATE 一般財団法人岩手陸上競技協会

〒020-0822 盛岡市茶畑2-8-27  
 TEL.019-621-8460 FAX.019-656-9006  
<http://long-distance.jp/iwate/>

今年も岩手は寒風身に凍みる季節となりました。関係各位の御尽力により、2017年秋季陸上競技大会を以てトラックシーズンも無事終了することができました。心から感謝申し上げます。愛媛国体では、これまでの選手強化が実り、天皇杯得点56.5点を獲得し、天皇杯順位14位という、過去の最高得点を上回る好成績を取ることができました。成年男子10000mWにおいて、ロンドン世界選手権20kmW日本代表でもある高橋英輝選手が見事に優勝の栄冠に輝いたのははじめ、他種目でも13種目に入賞者を出す活躍を示してくれました。特に、少年種別においては8種目に入賞し28.5点を獲得したことは、強化部を中心としたジュニア強化が順調に機能している証でもあります。今後も普及育成の重要性を共有し、ジュニア層の普及育成強化事業においても成果を上げていくため、選手強化に努め、諸課題を越えていきながら、今まで以上に岩手をアピールできるよう、本県の期待に応えられるべく更に上を目指す努力を継続していきたいと考えております。今年の各大会等における競技運営についても、競技役員及び審判員の芳々の真摯な態度と懇切な御指導により滞りなく終えた感があります。10月に東北高等学校新人陸上競技選手権大会が北上市北陸総合運動公園陸上競技場において開催され、皆様の多大なる御協力により大過なく終了することができたと思います。次年度は、6月に東北高等学校総合体育大会、8月に東北中学校陸上競技大会と同じ北陸総合運動公園陸上競技場で、また11月には男子・女子東北高校駅伝が一関市で開催される予定であります。大きな目標を掲げ出場する選手諸君が、自己記録を大幅に更新できるよう、関係者一同一丸となって準備を進めて参りたいと思っております。今後とも、関係各位の温かい御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。(文責：理事長 山崎孝一)

## JAAF MIYAGI 一般財団法人宮城陸上競技協会

〒981-0122 宮城郡利府町菅谷字籠40-1宮城県総合運動公園内  
 TEL.022-767-2194 FAX.022-767-2194  
<http://jaaf-miyagi.com/>

今年度、全国中学校大会では男子110mHで菅野君(仙台中田中)、男子棒高跳び小泉君(米山中)が決勝進出した。全国高校総体では、女子ハンマー投げ優勝、菊池美緒(古川黎明高)、1500m優勝(日本高校国内国際新)ヘレン・エカラレ(仙台育英高)が3000mと合わせ2冠を果たした。全日本実業団対抗では、女子100mH優勝 青木益未(えひめ国体でも同種目優勝)、4×400mR(共に七十七銀行)が優勝した。各分野で全国大会での入賞者が多数となり活躍をした。今年も宮城県を会場とした全国規模の大会が多数行われている。5月には「仙台国際ハーフマラソン&車いすの部」が行われた。新緑の「杜の都仙台」を1万人のランナーがエリート選手と市民ランナーが一緒に走れるのも魅力の一つになっています。10月、県内で初のフルマラソンが東日本大震災で甚大な被害があった沿岸部を会場に行われた「東北復興マラソン2017」が国内や国外からの参加者があり盛大な大会となった。また、出場最多大会回数である日本三景松島を中心に会場となる「第41回KHB松島ハーフマラソン」が今年も盛大に行われた。下旬には、「第35回全日本大学女子駅伝(杜の都駅伝)」が2005年から仙台市を会場と行われた時に優勝した名城大学が12年ぶり2回目の優勝を果たした。11月には「第37回全日本実業団女子駅伝(クイーンズ駅伝)」が2011年より松島～仙台間の地で行われ今年も熱戦が繰り広げられた。昨年本協会が創立70周年を迎え、協会発展のため選手・審判員登録者が共に未来に向けて躍進をしていきたい。(文責：総務委員長 小林智美雄)





事務局からのお知らせ

◆◆ダイヤモンドアスリート特設ページ公開中!◆◆

本連盟認定の「ダイヤモンドアスリート」に関する情報提供を目的とした特設ページを公開しております!「リーダーシッププログラム」をはじめとしたダイヤモンドアスリートの活動情報を随時掲載いたします。より多くの次世代アスリートの参考になればと思っています!

<http://www.jaaf.or.jp/diamond/>



◆◆2018 X-RUN CHIBAクロスカントリー大会 エントリー受付中!!◆◆

「第3回全国中学生クロスカントリー選手権大会」の詳細は176ページをご覧ください。



陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩 (陸連会長)  
友永 義治 (陸連副会長)  
八木 雅夫 (陸連副会長)  
尾縣 貢 (陸連専務理事)  
伊東 浩司 (陸連強化委員長)  
風間 明 (陸連事務局長)  
早川 大介 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

大嶋 康弘  
◇時報編集担当  
繁田 進  
石塚 浩  
青木 和浩  
宮田 宏  
廣瀬 静香

陸連時報編集室

〒163-0717  
東京都新宿区西新宿2-7-1  
小田急第一生命ビル17階  
公益財団法人日本陸上競技連盟 内  
TEL 03-5321-6580  
FAX 03-5321-6591  
WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>  
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>